

## 別紙 2

### 平成 30 年度教育課程研究指定校事業公募課題（詳細）

平成 30 年度における国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程研究指定校事業は、新学習指導要領等の実施を見据え、以下に掲げる公募研究課題（以下、「公募課題」とする。）について、募集を行います。

なお、小学校には義務教育学校前期課程を、中学校には義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程を、高等学校には中等教育学校後期課程を含みます。

#### 公募課題 1 各教科等に係る研究課題

##### 【小学校】

#### 学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究

##### ◆ 対象教科等

国語（全国学力・学習状況調査の活用等に係る内容） 外国語活動

※小学校において、上記以外の教科等の募集は行いません。

##### ◆ 研究期間：2年間

##### ◆ 実践研究の背景

- 各教科等での指導状況及び全国学力・学習状況調査結果から、一定の領域等の内容について、一層の指導と評価の工夫改善による児童の確実な理解、能力の定着が求められている。
- また、学習指導要領の実施状況に関して、ペーパーテストだけでは把握が困難な内容等について、その学習状況を把握し、今後の教育課程や指導方法等の改善を図ることも求められている。

##### ◆ 実践研究の目的、内容等

本研究では、各教科等において、児童の確実な理解、定着が望まれる内容に係る教育課程の編成、指導方法及び評価方法等の工夫改善に関する実践研究を行い、その成果を全国に普及し、各学校での指導改善の参考に資する。さらに必要に応じて、ペーパーテストだけでは把握が困難な学習状況等を把握するため、これらに関して各教科等で示された課題についても調査研究に取り組み、今後の教育課程や指導方法等の改善に資する。

##### ◆ 留意点

- 実践研究に取り組む際には、下記の各教科等の内容を中心に取り組むほか、応募した学校の課題等も適宜加えて実践研究に取り組むこととする。また、①、②・・・と複数の内容が提示されている教科等については、特に指示のある場合を除き、その全て又はいずれかの内容を選択して取り組むものとする。
- 平成 29 年度までに研究指定校として委嘱されている学校が、平成 29 年度までの研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は、それらの成

果等を基に新たに平成30年度の研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確にすること。

国語	<p>◇全国学力・学習状況調査の活用等に係る課題（学力調査官担当）</p> <p>○全国学力・学習状況調査の活用を図る指導方法等の研究（下記の(ア)～(イ)から一つ又は複数を選択すること）</p> <p>(ア)全国学力・学習状況調査の調査問題そのものや授業アイデア例を実際の授業に位置付けた単元構想及び単元の指導過程や指導方法等の研究</p> <p>(イ)B問題に係る課題を基にし、習得したことを活用して思考力や判断力、表現力を高める単元構想及び単元の指導過程や指導方法等の研究（例：記述力）</p>
外国語活動	<p>◇新学習指導要領を見据え、次年度からの移行期間における取組について、以下の①又は②のいずれかを一つ選択、あるいは①②ともに課題とする。</p> <p>①新学習指導要領を見据え、次年度からの移行期間における新教材の活用の在り方</p> <p>②新学習指導要領を見据えた年間指導計画（短時間学習を含めることは可能）の在り方</p>

### 【中学校】

#### 学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 対象教科等
  - 理科 技術・家庭（技術分野のみ） 特別活動
  - ※中学校において、上記以外の教科等の募集は行いません。
- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の背景
  - 各教科等での指導状況及び全国学力・学習状況調査結果から、一定の領域等の内容について、一層の指導と評価の工夫改善による生徒の確実な理解、能力の定着が求められている。
  - また、学習指導要領の実施状況に関して、ペーパーテストだけでは把握が困難な内容等について、その学習状況を把握し、今後の教育課程や指導方法等の改善を図ることも求められている。
- ◆ 実践研究の目的、内容等
 

本研究では、各教科等において、生徒の確実な理解、定着が望まれる内容に係る教育課程の編成、指導方法及び評価方法等の工夫改善に関する実践研究を行い、その成果を全国に普及し、各学校での指導改善の参考に資する。さらに必要に応じて、ペーパーテストだけでは把握が困難な学習状況等を把握するため、これらに関して各教科等で示された課題についても調査研究に取り組み、今後の教育課程や指導方法等の改善に資する。
- ◆ 留意点
  - 実践研究に取り組む際には、下記の各教科等の内容を中心に取り組むほか、応募した学校の課題等も適宜加えて実践研究に取り組むこととする。また、①、②・・・と複数の内容が提示されている教科等については、特に指示のある場合を除き、その全て又はいずれかの内容を選択して取り組むものとする。

- 平成29年度までに研究指定校として委嘱されている学校が、平成29年度までの研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は、それらの成果等を基に新たに平成30年度からの研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確にすること。

理 科	<p>◇科学的に探究する能力や態度の育成に向けた指導方法や評価方法等の研究</p> <p>○育成したい力（何ができるようになるか）を明確にし、どのような学習内容で（何を学ぶか）、どのように学習を展開すると（どのように学ぶか）、どのような効果があるか（何が目に付いたか）を研究すること。なお、科学的に探究するために必要な資質・能力の一部に限定したり、学習過程の一部に焦点をあてて研究してもよい。例えば、以下のような研究が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自らが課題を把握して、仮説を設定する力を育成するための指導と評価の研究</li> <li>・仮説から観察、実験の計画を立案したり、その結果を分析、解釈したりする力を育成するための指導と評価の研究</li> <li>・考察、推論したことから改善策を考えたり、新たな課題を発見したりする力を育成するための指導と評価の研究</li> </ul> <p>※中学校学習指導要領解説理科編 p 9 で示された「資質・能力を育成するために重視すべき学習過程のイメージ」を参考にすること。</p> <p>(<a href="http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387018_5.pdf">http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387018_5.pdf</a>)</p>
技術・家庭	<p>◆【技術分野】※家庭分野は募集していません。</p> <p>◇下記の①～③のいずれか一つに取り組むものとする</p> <p>①技術分野が目指す「適切な技術の発達を主体的に支えることのできる資質・能力」や「技術革新を牽引する力の素地となる資質・能力」の育成を、3年間を見通して計画的に育成するための方策と、育成状況の評価の在り方について</p> <p>②多様で高度な技術（technology）が身近な生活で利用されている中で、今後の社会で活用できる技術（technology）に関する重要な概念の明確化と、その習得を図る指導と評価の在り方について</p> <p>③プログラミング教育、ESD、知的財産権教育、防災・安全教育、道徳教育等、今後技術分野で特に重視すべき教育の、技術分野の特質を生かした指導と評価の在り方について</p> <p>（なお、重視すべき教育については、学校の実態に応じて例示以外を取り上げてもよい）</p>
特別活動	<p>① 学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践する学級活動の指導方法及び評価方法の工夫</p> <p>② 現在及び将来の学習と自己実現のつながりを考え、学ぶことと働くことの意義を意識して学習の見通しを立て、振り返る学級活動の指導方法及び評価方法の工夫</p> <p>③ 共生社会の担い手として求められる社会に参画する態度や自治的能力を育む生徒会活動又は学校行事における集団活動の指導方法及び評価方法の工夫</p>

## 【高等学校】

### 学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究

#### ◆ 対象教科等

##### ○ 普通教育に関する各教科等

国語 地理歴史 公民 数学 理科 保健体育  
芸術※（音楽，美術，工芸，書道） 外国語 家庭 情報  
総合的な学習の時間 特別活動

※芸術については，音楽，美術，工芸，書道の別に指定する。

##### ○ 専門教育に関する各教科

農業 工業 商業 水産 家庭 看護 情報 福祉

#### ◆ 研究期間：2年間

#### ◆ 実践研究の目的

本研究では，学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関し，研究主題を設定して実践研究を行い，その成果を全国に普及し，各学校での指導改善の参考に資するとともに，今後の教育課程や指導方法等の改善に資する。

#### ◆ 実践研究の内容

##### ○ 下記の各教科等の研究課題に基づいて各学校で研究主題を設定し，学習・指導方法及び評価方法の工夫改善について実践研究を行うこと。

その際，次に示す事項の全て又はいずれかに留意して実践研究を行うこと。

- ・基礎的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を解決するための思考力，判断力，表現力等の育成を重視した学習指導
- ・他者との協働性を重視した言語活動を取り入れた学習指導
- ・学習の見通しや振り返りの活動を取り入れた実社会・実生活との関わりを踏まえたりすることなどにより，生徒に主体性を持たせたり有用性を実感させられたりする学習指導

##### ○ 評価方法の工夫改善については，学習・指導方法の工夫改善と一貫性を持った形で取り組むこと。その際，次に示す事項の全て又はいずれかに留意すること。

- ・ペーパーテストのみによらない多様な評価方法による観点別学習状況の評価
- ・主体的に学習に取り組む態度又は「思考力，判断力，表現力等」の観点における評価方法の工夫改善
- ・基礎的・基本的な知識・技能だけでなく，それらを活用した思考力，判断力，表現力等をも評価するために効果的なペーパーテストの工夫改善

##### ○ 研究に際しては，以下の資料も参照すること。

- ・「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 各共通教科）」

（平成24年3月，国立教育政策研究所教育課程研究センター）

- ・「総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校）」

（平成24年3月，国立教育政策研究所教育課程研究センター）

- ・「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 専門教科）」  
（平成24年11月，国立教育政策研究所教育課程研究センター）

◆ 留意点

- 実践研究に取り組む際には，下記の各教科等の内容を中心に取り組むほか，応募した学校の課題等も適宜加えて実践研究に取り組むこととする。また，①，②…と複数の研究課題及び，(1)，(2)…と複数の内容領域等が提示されている教科等については，特に指示のある場合を除き，その全て又はいずれかを選択して取り組むものとする。
- 平成29年度までに研究指定校として委嘱されている学校が，これまでの研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は，それらの成果等を基に新たに平成30年度からの研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確にすること。

【普通教育に関する各教科等の研究課題】

国語	<p>◇下記の①～③のいずれか一つを選択すること。</p> <p>①「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のいずれかの領域における，実生活や実社会に生きて働く知識・技能及び思考力，判断力，表現力等の効果的な育成に関する学習・指導方法及び学習評価の工夫改善についての研究 （対象科目は，「国語総合」，「国語表現」，「現代文B」のいずれか又は複数の科目とし，対象科目・学年を明記すること。）</p> <p>②「書くこと」又は「読むこと」において，主として創造的・論理的思考の側面から思考力，判断力，表現力等を効果的に育成する学習・指導方法及び学習評価の工夫改善についての研究 （対象科目は，「現代文A」「古典A」を除くいずれか又は複数の科目とし，対象科目・学年を明記すること。）</p> <p>③古典から近現代につながる我が国の言語文化を理解し，言語文化の担い手としての自覚を高めるための学習・指導方法及び学習評価の工夫改善についての研究 （対象科目は，「国語総合」，「現代文A」，「古典A」のいずれか又は複数の科目とし，対象科目・学年を明記すること。）</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の対象とした科目については，学習指導要領の各科目（「国語総合」の場合は当該領域）の指導事項（内容の(1)）の全てを研究対象として取り上げること。</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めること。</li> <li>・特に「読むこと」の学習指導においては，教材の読み取りに偏らず，自分の考えの形成や読書活動を重視したり，見通しや振り返りの活動を取り入れたりするなど学習過程の適切な設定や生徒の主体性を重視すること。</li> <li>・学習評価については，特定の評価方法に偏らない，目標に準拠した観点別学習状況の評価を行い，評価を指導の改善に生かすことに取り組むこと。その際，思考力，判断力，表現力等を適切に評価するペーパーテストの開発等も研究対象に含めること。</li> </ul>
----	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科等と連携した，言語活動の充実に資する言語能力の育成に取り組むこと。</li> </ul>
地 理 歴 史	<p>○世界史・日本史・地理関係科目について，各科目の相互の連携を図り，「歴史的な見方・考え方」や，「地理的な見方・考え方」を育成する授業実践の研究</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働かせ，鍛える「見方・考え方」を明確にして，その実現状況を見取るための評価規準を設定すること。</li> <li>・世界史・日本史関係科目を取り上げる場合には，近現代の世界と日本の相互の関わりを重視して，指導内容を工夫・改善すること。</li> <li>・授業過程では，授業の方向性を定め，生徒の思考を促し，評価につながる「問い」（「大きな問い」と「小さな問い」）を工夫すること。</li> <li>・それぞれの単元において，適宜「大きな問い」の考察に向かうための「問い」（＝「小さな問い」）を設定すること。</li> <li>・「小さな問い」の考察が，段階的に「大きな問い」の考察につながるように，数時間にまたがる単元を設定すること。</li> <li>・歴史関係科目や地理関係科目の「見方・考え方」が深まるように，科目間の協働的な取組を工夫すること。</li> <li>・ペーパーテストやワークシート等，複数の評価材料を用意し，生徒の変容をつかめるように工夫すること。</li> </ul>
公 民	<p>◇下記の①，②のいずれか一つを選択すること。</p> <p>①次の（ア）の科目において，論述したり討論したりするなどの言語活動を通して，現実の社会の諸課題を主体的に考察させる指導方法の工夫改善についての研究</p> <p>（ア）「現代社会」，「倫理」，「政治・経済」の内のいずれかの科目</p> <p>②次の（イ）の科目において，習得した知識，概念や技能を活用して各科目の内容に係る諸課題を主体的に考察させ，思考力，判断力，表現力等の育成を図る指導方法の工夫改善についての研究</p> <p>（イ）「倫理」，「政治・経済」の内のいずれかの科目</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解決方法が一つに定まらず多様な見解のある事柄を取り上げる場合には，生徒の考えや議論が深まるよう，それらの見解の根拠となる資料などを提示することなどに留意すること。</li> <li>・評価については，表現された結果だけでなく，思考・判断の過程の評価方法についても研究すること。</li> </ul>
数 学	<p>○数学的活動を充実させ思考力，判断力，表現力等を育成する指導の研究</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容のまとまりごとに中心的な内容を明確にし，指導計画を工夫して数学的活動を充実するための時間を確保すること。</li> <li>・実生活や実社会との関連を踏まえた課題やゲーム的な要素を取り入れた課題な</li> </ul>

	<p>ど、生徒の自発的な学習を促し学習意欲を高めるよう提示する課題を工夫すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題練習の在り方等（問題の適切さや扱う問題数，質疑応答の有無等）を工夫し，粘り強く考えさせ，生徒同士の質疑応答等を通じて表現を練り上げさせるようにすること。</li> <li>・自分の考えを適切に相手に伝えたり，相手の考えを的確に受け止めたりすることができるよう，目的に応じて適宜ペア学習やグループ学習を取り入れるなどの工夫をすること。</li> <li>・ペーパーテストで総括的な評価をする場合も，中間テストや期末テストだけを評価対象としないよう適宜確認テストなどを実施するとともに，評価問題についてはねらいを明確にして適切に実現状況を捉えられるよう工夫すること。</li> </ul>
理 科	<p>◇科学的に探究する能力や態度の育成に向けた指導方法や評価方法等の研究</p> <p>○育成したい力（何ができるようになるか）を明確にし，どのような学習内容で（何を学ぶか），どのように学習を展開すると（どのように学ぶか），どのような効果があるか（何が目に付いたか）を研究すること。なお，科学的に探究するために必要な資質・能力の一部に限定したり，学習過程の一部に焦点をあてて研究してもよい。例えば，以下のような研究が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自らが課題を把握して，仮説を設定する力を育成するための指導と評価の研究</li> <li>・仮説から観察，実験の計画を立案したり，その結果を分析，解釈したりする力を育成するための指導と評価の研究</li> <li>・考察，推論したことから改善策を考えたり，新たな課題を発見したりする力を育成するための指導と評価の研究</li> </ul> <p>※平成 28 年 12 月 21 日中央教育審議会答申 p 37 で示された「資質・能力を育成するために重視すべき学習過程のイメージ」を参考にすること。</p> <p>(<a href="http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_3_2.pdf">http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_3_2.pdf</a>)</p> <p>なお，研究は理科全体で行うことが望ましいが，例えば，基礎科目（2 単位）に限定したものや，特定の学年に限定したのももよい。</p>
保 健 体 育	<p>◇体育と保健の両方に取り組むものとする。なお、新学習指導要領の趣旨や内容等を見据えて取り組むこと。</p> <p>[体育]</p> <p>○生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成に向けて，主体的に学習に取り組み，基礎的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力等の育成を重視した学習・指導方法と評価方法の工夫改善についての研究（各校で領域を設定すること。）</p> <p>[保健]</p> <p>○個人及び社会生活における健康に関心を持ち，健康課題を発見するとともに，課題の解決に役立つ知識の習得やそれらを活用して課題を解決するための思考力，判断力，表現力等の育成を重視した学習指導と評価の研究（以下</p>

	<p>の(1)～(3)から一つ又は複数選択すること。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(1)現代社会と健康 イ 健康の保持増進と疾病の予防 ウ 精神と健康</li> <li>・(2)生涯を通じる健康 ア 生涯の各段階における健康 イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 ウ 様々な保健活動や対策</li> <li>・(3)社会生活と健康 ウ 労働と健康</li> </ul> <p><b>【留意点】</b></p> <p>[体育]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各観点におけるバランスのとれた指導方法と評価方法についての研究を含めること。</li> <li>・基礎的な知識・技能だけでなく、それらを活用した思考力・判断力等を評価するために効果的な評価方法の研究を含めること。</li> </ul> <p>[保健]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各観点におけるバランスのとれた指導方法と評価方法についての研究を含めること。</li> <li>・ペーパーテストのみによらない多様な評価方法による観点別学習状況の評価について研究すること。(ICTを効果的に取り入れた指導と評価についての研究も含めること。)</li> </ul>
音 楽	<p>○音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとして、音楽の特性に即した思考力，判断力，表現力等を育成する主体的・創造的な音楽表現及び鑑賞の学習を実現する学習・指導方法と評価方法の研究（下記の(ア)～(カ)のいずれかに該当するもの)</p> <p>(ア)「音楽Ⅰ」において歌唱分野又は器楽分野の学習と鑑賞領域の学習との関連を図ったもの</p> <p>(イ)「音楽Ⅰ」において創作分野の学習を含むもの</p> <p>(ウ)「音楽Ⅰ」において鑑賞領域の学習を含むもの</p> <p>(エ)「音楽Ⅰ」において我が国の伝統音楽を学習素材として取り扱うもの</p> <p>(オ)専門学科等（総合学科や普通科のコース等を含む）において、「演奏研究」の趣旨を生かした学習指導の研究を含むもの</p> <p>(カ)「音楽Ⅱ」又は「音楽Ⅲ」において、上記(ア)から(エ)までのいずれかに相当する学習を含むもの</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者との関わりによる学びの深まりを大切にした学習過程を含めること。</li> <li>・表現領域においては「音楽表現の創意工夫」、鑑賞領域においては「鑑賞の能力」に係る指導と評価の関係及び評価方法を明確にすること。</li> <li>・生活や社会の中の音や音楽の働きや音楽文化についての理解に関する内容を含めること。</li> </ul>
美 術	<p>◇下記の①又は②のいずれかを一つ選択し、具体的な研究課題を設定すること。</p> <p>①美術Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ（いずれか又は全て）又は専門学科等（総合学科や普通科のコース等を含む）において、表現及び鑑賞において育成する資質・能力と</p>



	<p>学習内容との関係を明確にし、主体的に学習に取り組む態度の高まりの中で、資質・能力が総合的に関連して働くようにするとともに、主体的に学習に取り組む態度や、「思考力、判断力、表現力等」の育成を重視した指導方法及び学習評価についての研究</p> <p>②美術Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ（いずれか又は全て）又は専門学科等（総合学科や普通科のコース等を含む）において、表現及び鑑賞において育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にし、中学校美術科の内容に示されている〔共通事項〕（「形や色彩，材料，光などの性質や，それらがもたらす感情を理解すること。」及び「形や色彩の特徴などを基に，対象のイメージをとらえること。」の2事項）を造形的な視点として「A表現」及び「B鑑賞」の指導に効果的に取り入れるとともに、主体的に学習に取り組む態度や美術を愛好する心情を育て、美術の諸能力を伸ばし、美術文化の理解を図ることを重視した指導方法及び学習評価についての研究</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「思考力，判断力，表現力等」に関連する発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力の育成に当たって，効果的に言語活動を位置付けた指導方法を研究に含めること。</li> <li>・学習評価については，国立教育政策研究所が公表している「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 芸術〔美術〕）」に示されている内容を基に研究をすること。</li> </ul>
工 芸	<p>◇下記の①又は②のいずれかを一つ選択し，具体的な研究課題を設定すること。</p> <p>①工芸Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ（いずれか又は全て）又は総合学科や普通科のコース等において，表現及び鑑賞において育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にし，主体的な学習に対する態度の高まりの中で，資質・能力が総合的に関連して働くようにするとともに，主体的に学習に取り組む態度や，「思考力，判断力，表現力等」の育成を重視した指導方法及び学習評価についての研究</p> <p>②工芸Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ（いずれか又は全て）又は総合学科や普通科のコース等において，表現及び鑑賞において育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にし，中学校美術科の内容に示されている〔共通事項〕（「形や色彩，材料，光などの性質や，それらがもたらす感情を理解すること。」及び「形や色彩の特徴などを基に，対象のイメージをとらえること。」の2事項）を造形的な視点として「A表現」及び「B鑑賞」の指導に効果的に取り入れるとともに，主体的に学習に取り組む態度や工芸を愛好する心情を育て，工芸の諸能力を伸ばし，工芸の伝統と文化の理解を図ることを重視した指導方法及び学習評価についての研究</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「思考力，判断力，表現力等」に関連する発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力の育成に当たって，効果的に言語活動を位置付けた</li> </ul>

	<p>指導方法を研究に含めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習評価については、国立教育政策研究所が公表している「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 芸術〔工芸〕）」に示されている内容を基に研究をすること。</li> </ul>
書 道	<p>○書道Ⅰにおいて、育成する資質や能力と学習内容との関係を明確にし、「A表現」及び「B鑑賞」の相互関連を図りながら、生徒の思考力、判断力、表現力等を育成する指導方法の工夫改善と評価方法についての研究</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現と鑑賞の相互関連を図り、言語活動の充実を図りながら、意図に基づいて作品を構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の価値を考えたりする学習を適切に位置付けること。</li> <li>・生活や社会の中で書が果たしている役割等から書の伝統と文化について理解を深める学習を設定すること。</li> <li>・作品を構想し表現を工夫していく一連の制作過程や作品の価値やその根拠について考えていく鑑賞に視点をあて、学習の実現状況を適切に把握する評価について工夫改善を行うこと。</li> </ul>
外 国 語	<p>◇下記の①～③のいずれか一つを選択すること。</p> <p>①次の（ア）又は（イ）の科目において、生徒同士の英語を用いた言語活動を通じた思考力、判断力、表現力等の育成を重視した指導方法及び4技能を適切に評価する評価方法の工夫改善についての研究</p> <p>（ア）「コミュニケーション英語基礎」、「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」の内のいずれかの科目</p> <p>（イ）（ア）に示した内の複数の科目</p> <p>②次の（ア）又は（イ）の科目において、「話すこと」及び「書くこと」に関する技能を中心として、生徒同士の英語を用いた言語活動を通じた思考力、判断力、表現力等の育成を重視した指導方法及び「話すこと」及び「書くこと」の技能を適切に評価する評価方法の工夫改善についての研究</p> <p>（ア）「英語表現Ⅰ」又は「英語表現Ⅱ」の内のいずれかの科目</p> <p>（イ）（ア）に示した両科目</p> <p>③4技能の総合的なコミュニケーション能力を育成するための「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の設定及び指導と評価における活用方法に関する研究</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語で行うことを基本とした指導方法についての研究を含めること。</li> <li>・語彙や表現、文法事項そのものの習得に特化せず、これらについては実際のコミュニケーションの中で活用できるように指導すること。</li> <li>・評価については、観点別学習状況の評価における「外国語表現の能力」の評価に関する研究を含めること。その際、定期考査などの筆記テストに加え、スピーキングテストやライティングテストの在り方についても研究する</li> </ul>

	こと。
家庭 (共通教科)	<p>○生涯を見通して主体的に生活上の課題を解決し、家庭や地域の生活を創造する能力を育成するための学習・指導方法及び評価方法の研究</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の実施を見据え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組むこと。その際、深い学びの過程を実現する指導方法を工夫すること。</li> <li>・生徒が課題意識をもって、主体的に学習に取り組むための指導方法、評価方法について研究すること。その際、課題解決の過程を重視した指導の工夫・改善に努めること。</li> <li>・子供や高齢者など様々な人々と触れ合い、他者と関わる力を高める活動、衣食住などの生活における様々な事象を言葉や概念などを用いて考察する活動、判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり適切な解決方法を探究したりする活動などを充実すること。</li> <li>・学習評価については、評価を指導の改善に生かすことができるよう、評価計画や評価の時期、評価方法などを工夫すること。特に、「思考力、判断力、表現力等」の評価の工夫・改善に努めること。</li> </ul>
情報 (共通教科)	<p>○社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てるための学習・指導方法及び評価方法の工夫・改善に関する実践的研究</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の実施を見据えた内容とすること。</li> <li>・問題の発見や解決の過程を通して、生徒の主体的・対話的で深い学びの中で思考力、判断力、表現力等の育成を行うこと。</li> <li>・多様な見方を育てるためにペア学習やグループ学習を取り入れ、適宜発表などの活動を行い、積極的に質疑応答させるなど、言語活動の充実に努めること。</li> <li>・情報モラルの育成について配慮すること。</li> <li>・評価方法の工夫・改善については、ペーパーテストのみによらない多様な方法による観点別学習状況の評価について ICT の活用も含めて研究すること。</li> </ul>
総合的な 学習の時間	<p>○協働的に学び合うことで、探究のプロセス（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）が主体的・対話的で深い学びを実現する指導計画及び指導方法等の研究</p>
特別活動	<p>○入学から卒業まで見通し、生徒に主体性や有用性を実感させられる特別活動の研究（次の（ア）（イ）から一つ又は両方を選択すること。）</p> <p>（ア）ホームルーム活動「(1)ホームルームや学校生活づくり」「(3) 学業と進路」に示される諸内容を中核とした活動</p> <p>（イ）学校行事「(5) 勤労生産・奉仕的行事」のうち「就業体験などの職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験」を中核とした行事との系統的な取組</p> <p><b>【留意点】</b></p> <p>○特別活動で培われた自主的・実践的な態度を各教科等の協働的な学びで汎</p>

	<p>用的に生かせるようにすること。また、各教科等で培われた能力などを特別活動（ホームルーム活動の時間等）で総合・発展的に生かせるようにすること。</p> <p>○他者との協働性を重視した言語活動を取り入れた自己決定，集団決定に導く指導となるように工夫すること。</p> <p>○生徒のよさを積極的に認める多面的な評価となるように工夫すること。</p> <p>○アンケート結果などにより生徒の変容を数値で評価できるように工夫すること。</p>
--	---

【専門教育に関する各教科等の研究課題】

農 業	<p>○新しい学習指導要領を見据えた思考力，判断力，表現力等を育成する系統的な農業学習の展開に関する研究</p> <p>（ア）座学と実験・実習のバランスを考えた農業学習の展開</p> <p>（イ）生徒の関心・意欲を引き出す系統的な農業学習の指導と評価方法</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の基礎的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を解決するための思考力，判断力，表現力等の育成を重視し，「主体的・対話的で深い学び」につながる能動的な学習を取り入れた学習指導の在り方を工夫すること。</li> <li>・1年次の農業学習が生徒の関心・意欲を引き出し，2，3年次の農業学習の深化につなげることが重要であることから座学と実験・実習のバランスを考えた系統的な農業学習の展開とその評価方法についても工夫すること。</li> </ul>
工 業	<p>◇下記の①～③のいずれか一つ又は複数を選択し，研究課題を設定すること。</p> <p>①工業の各分野に関する科目と実践的な学習活動を伴う科目において，基礎的・基本的な知識・技術の習得やそれらを活用して課題を解決するための思考力，判断力，表現力等の育成を重視した学習指導についての研究</p> <p>②実践的な学習活動を伴う科目又は工業分野の科目において，他者との協働性を重視した言語活動を取り入れた学習指導についての研究</p> <p>③教科「工業」に属するいずれかの科目において，学習の見通しや振り返りの活動を取り入れたり実社会・実生活との関わりを踏まえたりすることなどにより，生徒に主体性を持たせたり有用性を実感させられたりする主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導についての研究</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①については，基礎的・基本的な知識・技能だけでなく，それらを活用した思考力，判断力，表現力等をも評価するための効果的な評価手法の工夫改善にも取り組むこと。</li> <li>・②と③については，観点別学習状況の評価について，「関心・意欲・態度」又は「思考力，判断力，表現力等」に重点をおいて評価方法の工夫改善にも取り組むこと。</li> </ul>
商 業	<p>○新しい学習指導要領を見据え，ビジネスを通じ，地域産業をはじめ経済社</p>

	<p>会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究に取り組む科目数については、複数科目を対象とすることもできること。</li> <li>・研究に取り組む科目の一部の内容を研究対象とすることもできること。</li> <li>・学習・指導方法の工夫改善については、次の（ア）～（エ）の一つ以上の視点で取り組むこと。</li> </ul> <p>（ア）商業に関する知識・技術を活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力等の育成を重視した学習指導</p> <p>（イ）他者と協働するケーススタディやディベートなどの言語活動を取り入れた学習指導</p> <p>（ウ）地域を学びのフィールドとした活動を通して、生徒に主体性を持たせたり有用性を実感させられたりする学習指導</p> <p>（エ）主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価方法の工夫改善については、ペーパーテストのみによらない多様な評価方法による観点別学習状況の評価について研究すること。</li> </ul>
水産	<p>○水産・海洋の諸課題を解決にするために必要とされる思考力、判断力、表現力等を育てる学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究に取り組む科目数については、複数で行うことも可能とする。また、科目の一部を取り上げることとしてもよい。</li> <li>・新しい学習指導要領を見据えた効果的な学習・指導方法についての研究を行うものとする。</li> <li>・ペーパーテストのみによらない多様な評価方法による観点別学習状況の評価についての研究を行うものとする。</li> </ul>
家庭 (専門教科)	<p>○生徒の主体性を育み、生活の質の向上と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てるための指導方法及び評価方法についての研究</p> <p>※原則履修科目である「生活産業基礎」を含めたその他の1科目以上について研究すること。</p> <p><b>【留意点】</b></p> <p>以下の内容について取り組むこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の実施を見据え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組むこと。その際、深い学びの過程を実現する指導方法を工夫すること。</li> <li>・実践的・体験的な学習の指導方法を工夫し、授業の過程の質的な改善に努めること。</li> <li>・生活産業のスペシャリストとして、地域を支える視点を明確にした指導方法について工夫すること。その際、地域との連携については、どのような取組が地域の活性化や学校及び生徒の変容につながったのか、その過程を明確にすること。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活産業基礎」については、消費者の多様なニーズを捉える調査方法や結果を商品開発等に活用する指導方法を工夫すること。</li> <li>・学習評価については、評価計画や評価の時期、評価方法などを工夫し、指導の改善に生かすよう努めること。また、特定の評価に偏らないよう多様な方法による観点別学習状況の評価について研究すること。</li> </ul>
看 護	<p>○新しい学習指導要領を見据え、看護を通じ、地域や社会の保健医療福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人を育成するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の対象科目は、一つでも、複数でもよい。また、科目の内容の全てではなく、一部でもよい。</li> <li>・生徒の主体的・対話的で深い学びを実現する学習の工夫改善について研究すること。</li> <li>・実践的・体験的な学習を通して生徒の共感力を高め、多様性の理解を深める指導の工夫を図ること。</li> <li>・評価方法については、生徒が自分の課題を発見し、主体的に取り組んでいくことを支援する視点からも工夫改善を図ること。</li> </ul>
情 報 (専門教科)	<p>○情報社会の発展を担う情報産業分野で活躍する人材を育成するための学習・指導方法及び評価方法の工夫・改善に関する実践的研究</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の実施を見据えた内容とすること。</li> <li>・研究の対象は一つの科目でも、複数の科目でもよい。また、取り上げる科目の内容は全てではなく、単元でもよい。</li> <li>・問題の発見や解決の過程を通して、生徒の主体的・対話的で深い学びの中で思考力、判断力、表現力等の育成を行うこと。</li> <li>・多様な見方を育てるためにペア学習やグループ学習を取り入れ、適宜発表などの活動を行い、積極的に質疑応答させるなど、言語活動の充実に努めること。</li> <li>・情報産業における情報モラルの育成について配慮すること。</li> <li>・評価方法の工夫・改善については、ペーパーテストのみによらない多様な方法による観点別学習状況の評価について ICT の活用も含めて研究すること。</li> <li>・必要に応じて大学や専門学校等の高等教育機関、企業及び公共機関等との連携を行う。</li> </ul>
福 祉	<p>○生徒の主体的な学習を通して思考力、判断力、表現力等を育成する指導方法及び評価方法の工夫改善についての研究</p> <p>※上記の研究を原則履修科目及び「生活支援技術」又は「こころとからだの理解」において行うこととする。</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自発的な学習を促し学習意欲を高めるには、課題を工夫することが必要である。そのため、適宜実生活や実社会との関連を踏まえた課題の提示やレクリエーション的な要素を取り入れた課題の提示などの工夫をすること。</li> </ul>

	<p>と。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生徒の思考力や表現力を育てるには、粘り強く考えさせ、言語活動等を通じて表現を練り上げることが必要である。そのため、生徒が身近に思える事例を取り上げるとともに気づくための工夫をすること。</li><li>・生徒の多様な見方を育てるには、言語活動を充実させることが必要である。そのため生徒同士の質疑応答を積極的に取り入れるとともに、適宜ペア学習やグループ学習などを取り入れる工夫をすること。</li><li>・主にペーパーテストで総括的な評価をする場合も、中間テストや期末テストだけを評価対象としないよう適宜確認テストなどを実施するとともに、適切に実現状況を捉えられるようねらいを明確にして問題の工夫をすること。</li></ul>
--	---

## 公募課題2 学校全体で取り組む研究課題

(1) 伝統文化教育を地域とともに推進するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 対象校種：小学校，中学校，高等学校，特別支援学校
- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の目的，内容等
  - 児童生徒に伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を身に付けさせるため，各教科等における伝統的な言語文化，歌唱及び和楽器，行事食・郷土食，産業，和服の基本的な着装その他の伝統的な事項に係る指導について，地域の関係者や専門家からの協力による指導効果の向上，学校と地域とのつながりの深化を図る実践研究を行う。
  - 研究の推進に当たっては，地域の関係者から児童生徒が指導を受けたり，学習の成果を地域の行事等で披露したりするなど，本研究での取組が地域の中でどのように展開され，また，それにより学校と地域との関係がどのように深まっていったかを明らかにするとともに，伝統文化教育に係る教育課程の編成についての地域との協働についても明らかにするよう留意して実践研究を行うこと。

(2) へき地の学校における教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 対象校種：へき地の小学校又は中学校（小中併設校の場合，小・中学校として応募することも可能）
- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の目的，内容等
  - 全国的な教育水準の維持向上，学習指導要領で掲げる指導内容等を効果的に指導するための参考となるよう，へき地学校として指定される学校において，次のものに資する実践研究を行う。（①～④の一つ又は二つ以上に取り組む。）
    - ①全国の他のへき地の学校等で共通する課題の改善
    - ②複式学級における指導と評価の工夫改善（特に，学習指導要領において複数学年にわたる指導内容を示されている学年でのルーブリックを活用とした指導と評価）
    - ③少人数学級等，児童生徒の学級集団の状況等を踏まえた課題の改善
    - ④へき地の学校ならではの教育資源を生かした特色ある教育活動の展開のための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善



(3) 資質・能力を育むために、教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質を高める実践研究（効果的なカリキュラム・マネジメントに関する実践研究）

- ◆ 対象校種：小学校，中学校 ※高等学校は募集しません
- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の目的，内容等
  - 平成29年3月告示の学習指導要領で定められている，学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力や，教科等横断的な視点に立った資質・能力を育むために，教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質を高める実践研究を行う。
  - 実践研究に取り組むに当たっては，下記の内容について行うこと。
    - ・各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
    - ・教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。なお、このことについては、全校体制で、学期ごとに教育活動の効果点を点検し、次学期の取組の改善を検討すること、また、その点検に当たっては、児童生徒への質問紙調査を行うこととする。
    - ・教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

(4) ESDを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 対象校種：小学校，中学校，高等学校
- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の目的，内容等
  - ESD（Education for Sustainable Development）は，環境的視点，経済的視点，社会・文化的視点から，より質の高い生活を次世代も含む全ての人々にもたらすことができる開発や発展を目指した教育であり，持続可能な未来や社会の構築のために行動できる人の育成を目的とする。
  - 実践研究に取り組む際には，特に下記の内容について，指導方法等の実践研究を行うこと。
    - ・ESDの理念に沿った学習内容について，学習指導要領を踏まえたESDの視点に立った体系的な指導と評価の推進
    - ・教科等の関連付けを図った教育課程の編成及び他の教科等における学習状況を踏まえた教科等の指導方法等の工夫改善
    - ・ESDの導入により，学校全体として児童生徒にどのような概念や資質・能力が身に付いたのか，どのように教員や学校が変わったのかなど，その成果と課題の検証

- 本研究では、全校体制で、学期ごとに教育活動の効果を点検し、次学期の取組の改善を検討すること。また、その点検に当たっては、児童生徒への質問紙調査を行うこと。
- 研究に際しては、以下の報告書等も参照すること。
  - ・ ESDリーフレット「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」(国立教育政策研究所教育課程研究センター)  
[[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd\\_leaflet.pdf](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_leaflet.pdf)]
  - ・ ESDリーフレット「持続可能な開発のための教育（ESD）はこれからの世界の合い言葉 みんなで取り組むESD！」(国立教育政策研究所教育課程研究センター)  
[[http://www.nier.go.jp/04\\_kenkyu\\_annai/pdf/ESD\\_leaflet.pdf](http://www.nier.go.jp/04_kenkyu_annai/pdf/ESD_leaflet.pdf)]

#### (5) 校種間の連携による教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 対象校種：幼稚園（幼保連携型認定こども園，保育所を含む。以下同じ。），小学校，中学校，高等学校
- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の目的，内容等
  - 各校種間の円滑な接続を図るため，校種間の接続を見通した教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究を行い，その成果を全国に普及し，各学校等における教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に資する。
  - 地域の実態や各学校段階の特徴を踏まえ，学びの連続性が確保される教育課程の編成，指導方法等の工夫改善を図ること。
  - 校種間連携のねらいや具体的な実施計画，取組状況（成果と課題）をあきらかにすること。
  - 研究を進める際には，都道府県教育委員会等との連携・協力の下で行うこと。また，委嘱を受けた都道府県教育委員会等は，実践研究を円滑に進めるために，学識経験者，PTA関係者，及び研究の協力校教職員等からなる連携教育研究会議を設けるものとする。
  - 各校種間の連携・接続を図るため，例えば次のような視点で実践研究を行うことが考えられる。
    - 【幼稚園と小学校との連携の場合】
      - ・ 小学校教育を見通した幼児期における指導方法及び幼児期の学びの状況を踏まえた小学校における学習指導の在り方
      - ・ 幼児の状況の申し送りや児童の状況のフィードバック等の工夫を図るなど，幼児・児童理解の共有を踏まえた指導方法等の工夫改善
    - 【小学校と中学校の連携の場合】
      - ・ 小中学校における学習内容の系統性を重視した教科指導等の工夫改善
      - ・ 小中学校で共通する学習活動や学習方法に視点を当てた学習指導の展開
      - ・ 中学校段階においても学習意欲を維持・向上させるための小学校及び中学校での学習指導の在り方
      - ・ 中学校でのつまづきを予防・解消するための小学校及び中学校での教科指導等の在り方
    - 【中学校と高等学校の連携の場合】

- ・社会参画への意識を高める指導の工夫（主権者教育など）
  - ・問題発見・解決のある学びの過程に視点を当てた学習指導の在り方
  - ・高等学校での学び直しのための指導の充実とその結果を踏まえた中学校での指導の改善
  - ・キャリア教育の成果を中学校と高等学校で共有・接続するための取組
- なお、幼稚園と小学校との連携・接続を図る場合は、以下の資料等を参考にすることも考えられる。
- ・「スタートカリキュラムスタートセット」（平成27年1月，国立教育政策研究所教育課程研究センター）  
 [[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/startcurriculum\\_mini.pdf?time=1446205479808](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/startcurriculum_mini.pdf?time=1446205479808)]
  - ・「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」（平成22年11月，幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議）  
 [[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2011/11/22/1298955\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/11/22/1298955_1_1.pdf)]
  - ・「幼児期から児童期への教育」（平成17年2月，国立教育政策研究所教育課程研究センター）  
 [[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidou/youji\\_jidou.htm](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidou/youji_jidou.htm)]
  - ・「環境教育指導資料（幼稚園・小学校編）」（平成26年11月，国立教育政策研究所教育課程研究センター）  
 [[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/kankyo\\_k\\_n\\_eb.pdf?time=1446640](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/kankyo_k_n_eb.pdf?time=1446640)]